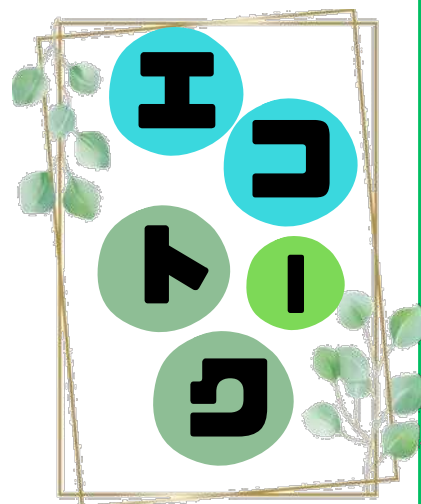


町 美 字



(2023年広報1月号)

皆さん新年明けましておめでとう
ございます。今年の冬の気温は、気
象庁の予測によると低めと発表され
ていますが如何お過ごしでしょう

か。2021年にイギリスで開催さ
れた国連気候変動枠組条約第26回
締約国会議(COP26)で、世界共通目
標とされた産業革命以前の地球の気
温を、今世紀末にはその上昇温度を
1.5℃未満に抑えよう!との提案
を採択し、段階的な努力目標も定
め、各国は2050年度までには

「温室効果ガスの排出量実質ゼロ」
の宣言をし、実行状況を見守り、技
術交流も行い、実現に向けて努力し
ているものと思われていましたが、
昨年11月にエジプトで開催された
国連気候変動枠組条約第27回締約
国会議(COP27)では、世界最大の
CO2排出量の中国、3位のインド、
4位のロシアに加えて原油輸出国の猛
反発があり、具体策が示されませ
んでした。

「全化石燃料の段階的削減」には参
加国195の国・地域のうち80か
国が賛同しましたが、日本は賛同し
ていません。日本では、2030年
度も石炭火力が総発電量の19%を
占める見通しで、脱石炭の年限さえ

表明していません。地球温暖化の影
響は、これまでに書いてきましたよ
うに、赤道付近の島国だけでなく、
北極地方も深刻な影響というより、
被害が出ていることは世界の共通認
識です。昨年には、雪解け水や氷河
の融解による大量の水で、国土の3
分の1が水に浸かってしまったパキ
スタンの例もありました。国連で
は、ヨーロッパ各国からの提案で

「温暖化被害支援の基金設立」の合
意があったものの、CO2削減の具体
策は進んでいないことが確認され、
環境問題は地球全体の問題とする環
境保護団体は、落胆の色を隠せませ
んでした。このまま地球温暖化が進
めば、今世紀末には4℃上昇するこ
とが共通認識であるにもかかわら
ず、具体的に進んでいないことが確
認されたCOP27でした。一方、日本
で排出されたCO2の再利用技術の研
究が進んでいるなど、明るい話題も
あります。50年後・100年後に
生活している人たちのために、今で
きることを思いと行いは、未来のお
手本となるでしょう。なぜならその
思いと行いを子供たちが見ているか
らです。

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆

